

福島県建設技術協会「会員の職務に関する意識調査」結果分析

1 土木（建築）技術者としての「やりがい」について

- 1) 多くの技術職員（全体の85%）は、職務に「やりがい」を感じている。
- 2) 約13%の職員は、「やりがい」を感じていない。
- 3) この要因として、職員のモチベーションと関連づけると、①担当業務配置、②希望外職員配置、③職場雰囲気、④担当外の業務等が「やりがい」と関係が深いと考えられる。



●コミュニケーションの推進

●希望する業務への配置

2 現場主義の理解度、実効性について

- 1) 全体の約85%の職員が意識・実行しており、部内に概ね浸透している。
- 2) 「現場へ行く時間がない」との意見もあり、現場へ行く時間の確保が課題となっている。



●竣工書類等の簡素化等の事務軽減

●調査物軽減への配慮

3 土木部組織運営の視点の意識（認識）について

- 1) 4割近い職員が、部の運営の視点を意識していない。



●職場OJT等による認識の浸透

4 業務内容（割合）について

- 1) 全体の約5割の職員が「適正とは言えない」「改善を要する」と回答している。
- 2) その内、約6割の職員が「担当業務が多すぎる」「突発的な業務が多い」と回答している。



●作成書類の簡素化

●調査物等の目的の明確化及びフォローアップ

●各担当の業務量の把握及び管理

5 モチベーションを左右するものについて

○モチベーションを上げる要因

- NO1 職場の雰囲気 (54. 1 %)
- NO2 職員個人の意識 (44. 4 %)
- NO3 目に見える成果 (38. 3 %)

○モチベーションを下げる要因

- NO1 職場の雰囲気 (51. 7 %)
- NO2 効果の見えない業務担当 (36. 2 %)
- NO3 上司・同僚等の指導助言不足 (36. 2 %)



● コミュニケーションの推進

● 調査物等の目的の明確化及びフォローアップ

6 自己担当業務の目標（スケジュール）の設定について

- 1) 約7割の職員は目標設定管理を実施している。
- 2) 業務内容（割合）との関連を見ると、業務目標を設定管理している職員は、業務内容（割合）が適正と感じている傾向がある。



● 「業務毎の目標（四半期毎）設定

● 四半期毎の業務進行管理（PDCA）

7 適切なアドバイスが受けられる職場環境について

- 1) 2割強の職員がその様な職場環境にないと回答している。
- 2) 関連する設問を見てみると、業務の「改善意識・創意工夫」については「意識してない」また、周囲に相談できる先輩や同僚が「いない」と回答している。



● 「コミュニケーション」の推進（定期的なショートミーティング等）

● 報・連・相の徹底

● 職場雰囲気への配慮（課、班単位）

8 身近に相談できる先輩や同僚について

- 1) 1割強の職員が「いない」と回答している。
- 2) 「いない」と回答した職員は、業務外での各種勉強会、地域活動、ボランティア活動等に、「参加してないが、参加したい」と考えている。



● 小集団活動の積極的な実践

● 各種活動の情報提供

● 得意分野（エキスパート）技術者の活用

9 業務外での各種勉強会、地域活動、ボランティア活動等について

1) 「参加している」「参加したいと思っている」と6割強の職員が考えている。



●各種活動の情報提供

10 資格取得に対する意見について

1) 9割以上の職員が資格を取得、又は挑戦したいと考えている。



●技術資格に関する情報の提供

●資格取得支援

●各種講習会等への参加奨励



[福建活動]

- ・資格取得講習会の開催
- ・各種講習会の実施（全県、地区連合会主催も含む）
- ・現場見学会の開催
- ・広報の徹底